

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2691600049		
法人名	株式会社 ピュアロージュ		
事業所名	グループホーム 亀岡陽風荘		
所在地	京都府亀岡市本梅町東加舎九日田9-6		
自己評価作成日	平成23年3月7日	評価結果市町村受理日	平成23年5月16日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kohyo.kyoshakyo.or.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2691600049&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社団法人 京都ボランティア協会		
所在地	京都市下京区西木屋町通上ノ口上ル梅湊町83-1 ひと・まち交流館京都 1F		
訪問調査日	平成23年3月25日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

営業時間に固執する事無く、個人が希望した生活の達成に向けての支援を念頭に利用者様への柔軟な支援を心掛けています。また、今後は地域での個人の生活を重視した取り組みに今まで以上に力を入れていきたい。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

大阪府能勢町に近い、亀岡市西部の田や畑が広がる地域に新築された2階建ての2階がグループホームである。運営推進会議に町内会長や民生委員の参加があり、広報誌を回覧してくれ、夏祭りへの参加がある等、地域との交流が少しずつ進んでいる。開設2年が経過し、管理者は内部の組織を構築するために、全体会議、グループホーム会議、勉強会を毎月開催し、利用者担当制を敷き、サービス向上、インフラストラクチャ、自己啓発、レクリエーション、広報、環境整備の6つの委員会を立ち上げ、毎月委員会を開催している。いずれにおいても職員が自発的に活動するとともに、職員の意見を取り入れた会議の運営をしており、詳細な記録を残している。介護の経験が少ない職員が多いものの、この取組により職員のモチベーションが上り、明るい雰囲気の中で働いている。利用者の馴染みの人や場との関係支援に積極的に取り組んでいること、毎月家族に個別の「便り」を送っていること等がこのグループホームの特徴である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「人と共に」「地域と共に」「自然と共に」生活の中の一つ一つの行動がリハビリと考え、その人がその人らしく集中力、充実感、達成感を持って頂き、人生の最後をここで過ごせて良かったと感じて頂く。	法人の理念「人と共に」「地域と共に」「自然と共に」を重要事項説明書に明記し、契約時に利用者や家族に説明すると共に、ホームの玄関ロビーに掲示している。職員には採用時にオリエンテーションし、日常の業務のなかで常に振り返りの核としている。	法人の理念を踏まえて、職員の話し合いにより、グループホーム独自の理念を策定することが望まれる。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ふれあいサロンへの参加。また、地域の取組み(区行事)への参加を実践している。	夏祭りや餅つき等行事の際に地域の人の参加がある。利用者は近くのスーパーや商店へ買物に行った際や区の運動会やふれあいサロンへの参加、地区の公民館の清掃等の際に地域の人と交流している。ホームの敬老会は近くの料理屋さんで会食している。	地域の幼稚園、保育園、小学校との交流や中学生の体験学習の受け入れ等に取り組んだり、地域のボランティアが来訪する等、地域住民との日常的な交流がさらに活発になることが望まれる。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を通じ、地域での認知症高齢者に対する理解を深める為、民生委員の集まり等に講演が出来る事を呼び掛けている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	意見のあった回想法を以前に増して取り入れ実践している。	家族会会長、副会長、町内会長、民生委員、市高齢福祉課職員、地域包括支援センター職員がメンバーとなり、隔月に開催し、記録を残している。回想法を取り入れてはどうかとの意見により、実践する等、サービスの改善に生かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議の中で、現状報告している。また、亀岡市介護相談員の施設見学依頼を受諾し、実施となった。	市からの依頼で市介護相談員の施設見学を受け入れている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に対しての内部研修を実施すると共に、支援にも取り組んでいる。	「身体拘束をしない」という方針を契約書に明記し、マニュアルを作成し、職員研修を実施している。玄関、裏口、エレベーターや階段等、全て施錠していない。事故やヒヤリハット事例は記録に残し、サービス向上委員会で検討し、グループホーム会議で話し合っている。	

京都府 グループホーム 亀岡陽風荘

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部研修を実施した。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	実際制度を利用されている方が1名あり、随時に関係者との話し合いを持っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	実施している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置、アンケート調査を実施している。	家族会があり、会長、副会長を決め、年1回の開催がある。行事の案内等は早い目に知らせてほしい等の意見があり、対応している。サービス向上委員会が職員の接遇について家族にアンケートを実施したものの苦情等はない。家族の面会は多く、夏祭り、餅つき、敬老会等の行事にも4家族くらいが参加している。併設の小規模多機能型居宅介護事業所と共通の広報誌を送付するとともに、一人ひとりの利用者の様子を書いた個別の「便り」を家族に送っており、喜ばれている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1回の定例会議(全体会議・小規模会議・グループホーム会議)を通じ全体からの意見が上がり易いよう体制を整備している。	全体会議、グループホーム会議、委員会、勉強会が毎月開催され、詳細な記録を残している。グループホーム会議では運営について話し合い、その後ケース検討を行っており、職員は積極的に意見を述べている。毎日朝夕の申し送りを実施している。勉強会は自己啓発委員がテーマを定め、職員からそのテーマについて知りたいことや疑問点等を聴き、内容を作っている。管理者は職員からの研修受講希望を聴く姿勢をもっている。亀岡市と南丹町のグループホーム連絡会が年4回開催されており、グループホームオリムピックのときには職員と利用者が参加し、交流している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務状況を勤務表にて把握。自己啓発委員会を設置し、勉強する機会を設けている。勤務状況についても、体調管理がし易い状況を配慮している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	実施している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡会が実施した運動会へ参加したが、それ以外での交流は持っていない。		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス利用前に自宅訪問の実施、情報収集すると共に本人の要望等聴いている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス利用前に自宅訪問の実施、情報収集すると共に本人の要望等聴いている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス利用前に自宅訪問の実施、情報収集すると共に本人の要望等聴いている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活の中で本人の精神面での安定を図る目的もあり、生活の中での役割をそれぞれが持てるように支援している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	随時の面接や外出・通院支援はご家族に対しても出来る事の一つとしてお願いしている。		

京都府 グループホーム 亀岡陽風荘

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの場所への外出は、行えていないが、それに代わる場所への外出は本人の希望が出た時には対応している。	利用者と管理者が同じ出身地であることを家族に伝えると、何十年も音沙汰のなかった弟が面会に来て、兄弟が再会し、その後も交流が続いている。生花の先生でお寺の花を生けていた利用者の経験を大事にしようと、近くのお寺の花を生ける活動を支援している。娘は東京、息子は北海道という利用者に積極的に電話の支援をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	会話の中でトラブルが発生しないように心掛けた支援を実施していると共に、利用者同士が話せるように橋渡し役となっている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	行えていない。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	実施している。	管理者と看護師が利用者や家族に面談し、基本情報、家族構成、身体状況、ADL、認知症状、医療情報等を収集し、記録している。実家は酒造業、21歳で結婚、子どもは2人等生活歴と生花、短歌等の趣味を聴取しているものの利用者の重いや意向の把握につなげていない。	その人らしい暮らしを支援するために、生活習慣やこれまで大事にしてきたこと等、思いや意向の把握に努めることが望まれる。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	実施している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	実施している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員のみであるがカンファレンスを実施し、そこでの意見を取り入れたサービス計画を作成している。	アセスメントに基づき、担当職員と相談しながらケアマネジャーが介護計画を立て、グループホーム会議で検討している。介護計画は利用者のできないことに目を向けた身体介護の項目が多く、生活の楽しみや生きがいの項目が少ない。モニタリングは介護計画の項目にそって担当職員とケアマネジャーが相談して3か月ごとに実施している。介護記録は介護計画の項目にそって介護の実施を点検した記録と時間を追って利用者の様子を書いた記録があるもののモニタリングの根拠になっていない。	介護計画は利用者のできないことだけでなく、できることに注目し、生活歴等の情報を生かして、生活の楽しみや生きがいの項目を盛り込むこと、モニタリングは毎月実施すること、介護記録は介護計画の項目にそって、介護の実施だけでなく、実施したときの観察と考察を書き、モニタリングの根拠とすることの3点が望まれる。

京都府 グループホーム 亀岡陽風荘

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	実施している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	実施している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	実施出来ていない。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関が2回/1週の頻度で往診している。また、状態変化時には随時の相談を実施している。	利用者のかかりつけ医への受診は家族がつきそっており、職員が同行する場合もある。ホームでの利用者の状況を看護師がサマリーにまとめ、医師と情報交換している。月2回ホームに往診に来てくれる医師にかかっている利用者もいる。歯科医にも家族が同行している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日の引き継ぎの中で実施している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくり	入院時には訪問し、経過や今後についての話しをし、スムーズな入退院が可能となるように努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	実施できていない。	「重度化した場合における対応に係る指針」を策定しており、利用者や家族に説明し、意向を聞いている。マニュアルを作成し、職員研修を実施している。事例はまだない。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	訓練は行えていない状況にあるが、急変時の対応についての内部研修を実施。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域との協力体制は構築できていないが、避難訓練を実施している。	火災に対する設備を整えており、消防計画を立て消防署の協力のもと避難訓練を実施している。	夜間想定も含めて避難訓練を年2回以上実施すること、避難訓練には地域住民の協力をもとめること、防災計画を立て防災訓練を実施すること、利用者を2階からおろす計画を立て、訓練すること、少なくとも3日分の備蓄を準備すること等々が望まれる。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉遣いは気づいた時点で職員同士が注意をし合う状況もある。本人の立場に立った声掛けの重要性も随時に伝えている。	トイレは中から鍵をかけることができ、トイレ誘導等の声かけはプライバシーに十分注意している。守秘義務について職員から誓約書をとっている。利用者の自己選択を支援するために、例えば飲み物はお茶、コーヒー、紅茶、ゆず茶、こぶ茶、抹茶ミルク等を準備している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定の支援は、常時取り入れ、生活に密着した状況に於いて実施している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その時の自己の感情などを考慮し、実施するように心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の希望による衣類の買い物を実施している。季節に応じての服装にも配慮している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	日常的に調理に関心のある利用者様に対して、一緒に作る、準備、片付けを実施している。また、行事の際には本人がその場で選択できるようバイキングでの提供も実施した。	利用者の希望を聞いて職員が季節感に配慮した献立を立て、買物、調理、後片付け等、できる利用者とともにやっている。利用者によって食べられない献立のときは別のメニューを作っている。味噌汁や和え物等、1品をつくりあげる利用者もいる。鍋料理、ホットプレートでのお好み焼き等も献立に上り、外食も楽しんでいる。職員も同じ食卓で会話しながら食事している。食事と水分の摂取量を記録している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	四季の献立には着目し、それぞれの誕生日には、ケーキを提供する等の支援を実施している。また、毎月職員4人が集まり、献立に偏りがないように栄養バランスにも配慮している。		

京都府 グループホーム 亀岡陽風荘

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアを行っている	実施している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	尿失禁のある方に対しては、その方の排泄リズムの把握に努め、誘導している。	なるべくトイレでの排泄をという方針のもと、利用者ごとの排泄チェックにより排泄パターンを把握し、トイレ誘導している。トイレ誘導により失禁の減った利用者や退院後にオムツ交換のマニュアルを作成し、オムツがとれた利用者等、改善が進んでいる。排便は安易に薬に頼ることなく、利用者ごとに適切な食物を試して支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	実施している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	その時の心身の状態に応じて時間を空けての誘いや日をずらしての対応を実施している。入浴を拒否される方に対する対応として夜間の入浴を実施した。	明るい浴室の家庭風呂である。毎日入浴の準備をし、夜間も含めて利用者が入りたい希望の時間帯に支援している。マンツーマンの同性介助で、ゆず湯等も楽しんでいる。入浴拒否の人にはさまざまな工夫をしており、近くの大浴場に同行する場合もある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個人の生活に合わせる形での就寝支援を心掛けている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	変薬があった時には薬の副作用を職員に看護師から伝えている。また、間違いのないように用量・用法が確認できるようにセットしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	実施している。		

京都府 グループホーム 亀岡陽風荘

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	事業所として、個人の希望・判断により外出支援していると共に、希望を伝えられない方についても職員が声掛けすることで実施している。家族との調整の中、実施して頂く事もある。	利用者はホームをまわりを掃除したり、ゴミを出したり、畑に出かけたり、近くの加舎神社まで散歩したり、近くのなんでも屋でオヤツを買ったりしている。一庫ダムでの花見や紅葉狩り、加舎神社での初詣など、季節ごとにドライブしている。喫茶店に行きたい、買いたい物がある等、利用者の希望に応じて個別に出かけている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には多額の金銭については管理されていない状況にあるが、小遣い程度の金銭の取り扱いを実施されている方もある。また、外出時に使用される時には手渡し、使用できる状況を作っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	殆ど本人が電話や手紙を自発的に出す事(希望する事も含む)はないが、掛けてきたり、届く事はある。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有スペースに於いては不快な臭いや音がないように配慮している。また、壁掛け等の季節感を感じられる物を利用者様と一緒に作成し、飾る事等の取組みを実施している。	職員の声の大きさ、テレビの音量等には十分気を付けている。大きな窓からの外光は二重のカーテンにより調節しており、カーテンを操作するために赤い絨毯を張った踏み段を置いている。畳コーナーにある座卓と座布団、観葉植物の緑が柔らかい雰囲気を出している。玄関に置かれたシクラメンの小さな鉢が季節感を感じさせる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	個室を利用して個人が一人になれる空間作り、利用者同士で過ごせるような空間作りとその場の状況に応じて対応するよう心掛けている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の日常的に使用している物を持ちこんで頂く、本人の趣味等を反映できるように部屋を飾るといった事は常に実施している。	居室は洋間で物入れがついている。利用者はベッドやふとんを持ち込み、絨毯を敷いて床に寝ている人もいる。タンス、鏡台、衣桁、テレビ、テーブル等、使い慣れた道具を持ち込み、写真や自分の作品を飾っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自室に表札をたてる、トイレにはトイレと判るよう貼り紙をする等の工夫をしている。		